

## 献 呈 の 辞

敬愛申し上げる徳重善之教授が、70歳の定年を5年も余されて、この度勇退の途を選ばれたことは私ども後進にとって誠に寂寥の感にたえないものがある。

しかしながら、これも先生が岩手県よりの懇請もだしがたく、同県立宮古短期大学創立の礎として赴任なされることを決意なさったご事情を拝承すれば、永年にわたりご交誼ご指導を頂戴した私どもとしては、抑えがたい惜別の情をもたえしのばなければならないものとする。

願れば、先生におかれては、本学本学部の教育研究に貢献されること甚だ大なるものがあつた。先生は1953年本学商学部商学科を卒業されるや、同年創設直後の経営学部助手補として奉職され、1955年助手、1959年専任講師、1962年助教授、1967年教授と、一貫して経営統計学及び近代経済学の教授と研究に従事され、1972年以降は併せて本学大学院経営学研究科において経営統計学特論を担当されて後進研究者の指導育成に尽力された。

この間、本学の管理運営面にも協力をおしめられ、1980年から1986年まで満6年になんなんとする長期間にわたり本学計算センター所長の重責を全うされ、全学的計算支援体制の整備に多大の寄与をなされたことは広く人びとの知るところとなっている。

学外においても、つとに日本統計学会会員、日本経営学会会員として多くの研究を発表され、情報処理教育がわが国大学教育における共通課題と認識されるようになった時期には、私立大学情報教育連絡協議会会計監査委員、同管理委員として、先生ならではの真摯さを以て努力を傾けられた。

先生には、そうした学問上の貢献に加え、折にふれ職業への取り組み方、学生への献身の仕方など実に多くのことを私ども後進に身を以て教示して下さった。若くして米国ユタ大学大学院に留学され、マスター・オブ・サイエンスの学位を授与された先生が、英語の入試監督の際、終了時間の切迫を受験生諸君に知らせるために仰った“テン・モア・ミニッツ！”という歯切れのよい言葉の響きが今も耳朶に蘇る思いがしている。

そうしたさまざまの想いを籠めて、先生の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げつつ、経営論集第38巻第3・4合併号をここに謹んで献呈申し上げる次第である。

1991年3月

明治大学 経営学部長

山 田 雄 一